動物に快適な環境を！ アニマルウェルフェア

ブラシはお母さんの舌代わり!?

お母さん牛の舌に代わって、回転ブラシが子牛の体を毛づくろい――。そんな装置を農研機構が開発しました。家畜を感情を持つ生き物としてとらえ、快適な環境のなかでストレスを減らし、ヒトも動物も幸せな関係を結ぼうという「アニマルウェルフェア」の取り組みにもとづく研究です。ブラシで育った子牛は成長がよくなるなどの効果があるといいます。

農研機構の矢用健一さん

飼われている牛になつかれる矢用健一さん＝茨城県つくば市の農研機構

体重増加、げりも少なく

6月の下旬、茨城県つくば市の農研機構畜産研究部門を訪れると、たくさんの乳牛が牛舎にいました。動物行動管理グループ主席研究員の矢用健一さんが近づくと、1頭が甘えるように寄ってきました。

「ブラシで育った牛は人なつっこくなるようです」。矢用さんはそう言って、牛のあごをやさしくなでました。

乳牛の飼育では多くの場合、発育を良くするなどの理由で、子牛は生まれて間もないうちに、お母さん牛のもとから引き離されます。矢用さんによると、最近は肉牛でもそのような飼い方が増えているといいます。そのため、子牛にとっては、お母さん牛から体をなめてもらう機会はほとんどありません。

ブラシに顔を押しつける子牛＝農研機構提供

「サルやネズミなどほかのほ乳動物は、母親から早くに離すと、ストレスを感じやすくなったり、仲間とうまく生活できなくなったりします」と矢用さん。そこで、お母さん牛の舌ざわりのようなブラシを開発し、子牛がお母さんに体をなめてもらうことを再現しようと思いたちました。

ブラシはナイロン製で、長さ40㎝、直径14㎝の丸い筒のような形。子牛が体を押しつけると、スイッチが入って毎分30回転で動き、体を離すと止まるしくみ。

「おもちゃだと思われると、子牛はすぐに飽きます。ザラザラ感や回転のスピードなど、お母さん牛の舌ざわりに近づけるのに苦労しました」といいます。

牛舎に取りつけると、子牛は1日1回1分、1日に計20分ほどブラシを使うようになりました。実際に母牛が子牛をなめる平均的な時間も1日20分くらいだそうです。「ブラシが気持ちいいのか、どの牛もとろーんとした表情になります」

いくつかの牧場で試してもらったところ、ブラシを使っていない子牛に比べ、体重が増え、げりが少なくなるなど成長がよくなり、ほかの牛ともよく遊ぶようになったといいます。

「ストレスが減った」「毛づやがよくなった」。そんな農家さんからの声も寄せられています。

ブラシを押すと、スイッチが入って回るしくみになっています

「動物の幸せ」に注目

アニマルウェルフェアとは、動物の「アニマル」と、「よりよく生きる」「福祉」といった意味の「ウェルフェア」を合わせた言葉です。

1960年代、家畜をモノ、工業的に扱うことを批判した本が出版されて大きな関心を呼ぶなど、ヨーロッパでは広く知られた考え方です。

アニマルウェルフェアを支える「5つの自由」（下記参照）という大切な考え方があります。矢用さんのブラシは、このうちの動物が本来の行動をとれるようにする「通常の行動様式を発現する自由」にあたります。

矢用さんは「ストレスなく育った牛は健康になり、病気になりにくくなります。その結果、治療にかかるお金が減るだけでなく、安全・安心な畜産物の生産につながっていくと考えています。多くの人にアニマルウェルフェアについて知ってほしいです」と話します。

アニマルウェルフェアを支える『5つの自由』

- A 飢え、渇き及び栄養不良からの自由
- B 恐怖及び苦悩からの自由
- C 物理的、熱の不快さからの自由
- D 苦痛、傷害及び疾病からの自由
- E 通常の行動様式を発現する自由

大きな器にえさをのせて争わないように

きれいな鶏舎で快適に

寒くないようにヒーターで暖かく

写真は畜産技術協会 AW実践パンフレットから

【クイズの答え】 Q1 ❷ Q2 ❹の兵庫県。2万4400か所あります。2位は広島県（1万8938か所）、3位は香川県（1万4614か所）。（2021年1月時点）